

令和6年度 園評価書

園番号 13 園名 服織中央こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

| 1 教育・保育目標 | 2 重点目標 | 評価指標 | 園説明 | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から | 改善策 (来年度の具体的な取組目標等) |
|-------------|--|---|---|------|-------|--|---|
| 丈夫な体と豊かな心の子 | わくわくが いっぱい!! ~ふれて・ かんにて・ もっとあそぼう! ~ | 一人一人の良さを認められることで安心して自分の思いを表現し、わくわくしながら意欲的に遊ぶ | 保育者が一人一人の姿や行動を肯定的に受け止め、認めたり褒めたりする関わりを意識し、その行動の意味や面白さ・楽しさを考えたりすることで、子どもたちが自信をもち、思いを出しながら意欲的に遊ぶ姿が見られている | A | A | ・子どもの笑顔を大切にしているのが伝わってくる。遊びの続きができるよう、とつき棚があるのは、その子の作品やその子自身を大切にしていとてとてもいいと思う | ・子どもたちが自分から遊びを見つけ遊び出したり、友達のやっていることに興味をもち関わる姿が増えているが、そこからの発展がまだ少ない。子どもたちが遊びの楽しさを広げ、もっとやってみたくなるような環境作りや友達とのつながりや遊びのつながりができていくように保育者も子どもの目線に立って遊びの興味関心を見取り、関わっていくようにする |
| | | 遊びの楽しさや面白さを保育者や友達と共有し、遊びが広がっている | 保育者も必要に応じて一緒に遊びに加わり、楽しさや面白さに共感したり見守りながらタイミングを見て声を掛けたりすることで、友達遊びに興味をもち遊びが広がったり異年齢の遊びにも興味をもち真似する姿も見られている。振り返り時に友達遊びを伝えることで、遊びに興味をもち一緒に遊ぶなど、遊びが広がっている | A | A | ・保護者からすると、室内の環境が見えづらいので、保育で環境を工夫したり子どもたちがそこでやっている活動が見えにくい。ドキュメンテーションでの日々の発信が比較的外での活動内容になりがちだが、保護者にもっと室内での遊びを発信していくことで、やっている保育が理解してもらえるのではないかなと思う | ・十分思いを表現する子どもの気持ちを十分受けとめ、一人一人の良さをたくさん認めていく |
| | | 活動意欲が満たされる環境のもと、様々なことに興味関心をもち自ら関わったり探求したりしながら遊びを深めている | 昨日の遊びの続きができるよう朝の環境準備をしたりとつき棚の活用をしたりすることで遊びが続き遊びを深めようとする姿につながっている。各学年の遊びの拠点をもとに、子どもたちの発想や興味をみて環境の工夫・再構成を行っていくことで子どもたちの遊びが深まっている。一方で園庭環境に比べて室内での環境で、まだ子どもの思いが満たされる環境に十分ではない | B | A | | |

II 各領域に関わること

| 大項目 | 中項目 | 評価指標 | 園説明 | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から | 改善策 (来年度の具体的な取組目標等) |
|------------------|----------------------------|--|---|--|-------|--|---|
| 1 こども園における教育及び保育 | (1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育 | 一人一人の発達や育ちを把握し、職員間で共有しながら、発達の連続性を考慮し6年間の育ちを意識した教育・保育を行っている | 一人一人の発達や育ちはクラス内で共有したり会議や打ち合わせでも共有を図るようにしている。また季節ごとの保育構想を園内研修を通じて共有したり質疑応答を通して保育理解を深めたりして情報共有・意見交換を行っている。また、ドキュメンテーションを用いた園内研修において、資質能力の表を用いて各学年の発達や育ちの把握、大切にすべきところはどこかをおさえ、発達の連続性に考慮し教育保育を行っている | B | A | ・環境については保育者が考えていくことも大事だが、大人がやりすぎてしまうのではなく、子どもと一緒に作り出す、考えていくことも大事だと思うのでそこも意識していくことができればいいのではないかなと思う | ・季節ごとの保育構想や公開保育やドキュメンテーション研修などの園内研修を通して、それぞれの年齢の発達を抑えた保育を行うことができるよう引き続き行っていく |
| | (2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮 | 朝の受け入れを丁寧に行い、個々の健康状態や生活リズムに合わせて、園生活を送ることができる | 登園時に健康状態や家庭での様子を丁寧に聞き取り、一人一人の生活リズムや発達年齢・体調に配慮し安心して生活できるようにしている。乳児は連絡帳がなくなったことにより、先にコードモンからの情報を見てから保護者に声を掛けることができ、一人一人の健康状態をより把握できるようになった。また前日の遅番→早番、早番→クラスへの伝達については書式を変更したことで改善され前日の怪我や体調不良等の聞き取りもできている | B | A | ・防災については、いくらやってもAになることはないといってもいいのではないかな。今後防災意識や安全意識を高めていくことができるような活動を取り入れていってほしい | ・早寝番の過ごし方等、子どもたちの人数や遊びの変化に応じて定期的に話し合って改善していくようにする |
| | (3)環境を通して行う教育及び保育 | 「おもしろそう」「もっとやりたい」と遊びが深まっていく、興味関心に応じた環境を構成している | 子どもたちの遊びの様子から何に興味関心を持っているのか、何が楽しいのかを探り、前日の遊びから今日の遊びを予想して環境整備を行ったり翌日に遊びの続きができるようとつき棚を各クラスで用意し取っおいたりすることで「もっとやりたい」と思える環境を構成している。子どもの遊びが室内外でつながるように工夫したり、子どもが自由に選ぶことができ整理整頓ができる廃材の置き方や使い方についても改善が必要である | B | B | ・食育でやったことを、家でもやってみようとしたり、話をしたりする姿があり、園での食育活動が家庭でも活かしていると感じる。クッキングの回数をもっと増やしても良いと思う | ・公開保育やドキュメンテーションでの園内研修、また季節ごとの保育構想話し合いなどを通じて、園全体で環境構成について学んだり、環境の見直しを行ったりする機会があるとよい |
| 2 安全管理・指導 | (1)事故防止・防災 | 安全面を意識して環境の点検や見直しを行い、子どもが安心してやりたい遊びを楽しむことができるようになっている | ヒヤリハットを掲示し職員間で共有することができている。事故防止としてヒヤリハットをもとに環境の見直しを図ったり、今年度は老朽化した築山の滑り台の改修を行うことができた。防災では各保育室で最も危険が少ない場所や避難経路について考えたり話し合ったりすることで防災の意識改革を行い、子どもたちに定着している従来の身の守り方から自分たちで危険な場所を考え逃げる、よけるという考え方に変わるよう話をした | B | B | ・特別支援教育センターをはじめ関係機関との連携、さらにはスムーズな園-小学校接続のためにどのような手立てがとれるのか、小学校との連携も図ることができたらよりよいと思う | ・些細なこともヒヤリハットに記入することでより細かなところまで気を付けるようにしていく。またあげられた箇所の改善だけではなく、自分たちから積極的に発信できるようにしていく |
| | | (1)健康教育の充実 | 食育活動や食育だよりを通して、「楽しく食べること」の大切さを子どもや保護者に伝えている | 毎月食育の日を実施し子どもも興味をもって参加できるようにしたり、給食やおやつ時に栄養士がクラスをまわり声を掛けたりすることで子どもたちの食に関する興味関心が広がっている。また食育だよりを配信したり給食のサンプルを展示したりすることで、家庭でも食について話題にできるよう発信を行っている | B | B | ・ICTを活用し、日々の様子を写真付きで発信しているのでわかりやすい。クラスだよりにあったような子どもの育ちや活動の様子など、ドキュメンテーションの内容の深まりに期待していきたい |
| 3 保健管理・指導 | (1)健康教育の充実 | 担当者会議において、一人一人の特性に応じた支援方法を検討し、共通理解のもとで支援をしたり、園全体で学び合ったりしながら支援の質を高めている | 担当者会議を行い、話し合った内容を回覧し職員間での共通理解を図っている。また担当者会議だけでなくケース会議の中では、行動分析やインシデントプロセス法を取り入れた話し合いで気になる子の支援方法を考えたりの様子も共有したりすることで、園全体で支援方法についての共通理解を図ることができている | B | B | ・送迎時に、子どものエピソードを丁寧に伝えてくれるので安心して子どもを預けている。ICTでの発信だけでなく保護者と顔を合わせての声掛けも引き続き大事にしてほしい | ・実際に野菜を栽培したり触れたりする経験や体験を大切に、食育につながっていくよう、年間栽培やクッキングを計画実行していく |
| 4 特別支援教育・保育 | (1)支援体制づくりの推進 | 乳児、幼児会議、職員会議、担当者会議等の情報を職員で共有し、連携を取り合いながら教育・保育を進めている | 職員会議・幼児会議・乳児会議・クラス会議などで話し合った内容は、紙面にまとめて回覧したり職員会議や打ち合わせで報告したりすることで、情報を共有し連携を取り合うことができている。紙面の回覧で伝わりづらいことをどのようにして全体で共有していくかについての工夫が必要である | B | B | ・ICTを使っているが、業務中に作り配信する保育者側の負担もあるのではないかな。iPadの台数を増やすなど、少しでも保育者の業務改善になるようにしていってもらえるといいと思う | ・サポートプランについて、他の職員からのアドバイスをもらう等、全員でサポートする体制を大事にする |
| 5 組織運営 | (1)組織体制の充実 | 「もっとあそぼう」と夢中になって遊んでいる姿を見取り、まわりの遊びに興味をもちやってみたくなるような発信の仕方や環境構成について分析し教育・保育を進めている | 遊び構想をもとに各クラスの環境について話し合うことで環境の工夫をしている。また子どもたちの遊びの様子から各学年の遊びの拠点の環境を整え毎朝の遊び出しの環境準備を行っている。また各プロジェクトで環境整備を進めていき環境作りをしているが、廃材置き場の課題として、置き方・表示の仕方等工夫していく必要がある | B | A | ・いろいろな保護者からの要望に対し、園側がすぐに対応してくれるのでありがたい | ・子どもが興味関心をもち、やってみたい、と遊びを広げたり深めたりすることのできる環境づくりに向けて、園内研修や幼児会議、乳児会議、クラス会議の中で環境作りについて検討していく |
| 6 研修 | (1)研修体制の充実 | 園での取り組みの可視化やICTでの発信をしたり、送迎時に積極的に保護者に声を掛けたりして、子どもの育ちを共有している | コードモンでのおたよりや連絡帳・ドキュメンテーションの配信やホームページ、また行事の様子は写真入りの画用紙にまとめる等子どもたちの遊びや成長の様子を発信している。送迎時には保護者に声をかけ、子どもたちの様子を直接伝えたり参加会等を通して子どもたちの成長や教育保育について保護者に伝える機会をもっている | B | A | ・就学前の説明会で、雑巾絞りができない子が増えている話が出た。園で当番活動でやるだけではなく、家庭でも経験できるように、園と家庭が連携していかなければならないと感じる。 | ・送迎時の直接のコミュニケーションを大事にしていくとともに、わくわくボードでの写真入りの掲示をしたり、コードモンを利用したICTでの連絡帳やドキュメンテーションでの発信をしたりする中で内容の充実を図っていく |
| 7 教育・保育環境整備 | (1)教育・保育環境の充実 | 小学校との接続について考え、研修だよりやドキュメンテーション等を通して園での取り組みを小学校に発信したり、散歩で訪問したりしながら連携をとっている | 小学校に研修だよりやドキュメンテーション、アプローチカリキュラムを届け、園での取り組みを発信した。また年長児が小学校の訪問をさせていただき就学への期待をもつことができている。災害時などにも連携できるよう、日ごろから小学校との連携を図っていくことが必要だと感じている。近隣園との連携としては、小学校だけでなく、連携園の2歳児との交流や服織こども園、杉の子幼稚園との交流ができている | B | A | ・支援センターに来ている未就園児と、園児との交流が行われていることで、お互いが交流できることだけでなく、園に入るとどのような保育が行われるのかを、未就園児の保護者も知ることができるとよい | ・園の研修だよりやアプローチカリキュラムを小学校に知らせ、また小学校の授業公開に参加するなど、職員間での連携を図っていく。また年長児の校内探検や教頭先生への質問タイムなど、就学前の交流だけでなく、他の学年の子どもたちも小学校に散歩に出かける等して小学校が身近に感じることができるようしていく |
| 8 家庭との連携・協力 | (1)家庭教育への支援機能の充実 | 年間を通して計画的に園外保育に出掛け、地域に自然に触れる機会を設けたり、子育て支援センター来園者などの地域の方々との交流したりしている | 散歩に出かけ、近所の方に挨拶をする等交流したり地域の自然に触れたりすることができた。また、支援センターに来る未就園児の地域の子たちを夏祭りや運動会、クリスマス会などの行事を通して交流を図っている | B | B | ・引き続き、支援センターとの交流をしていくとともに、地域の自然や環境に触れる機会を増やすよう、年間散歩に出かける計画を立てていく | ・近隣園との交流を行い、園児同士が親しみをもてるようにする |
| 9 近隣の学校との連携 | (1)近隣の園との連携の推進 | | | B | A | | |
| 10 地域との連携 | (1)信頼される園づくりの推進 | | | B | B | | |